

School「愛」が 「消滅可能性自治体」を救う？

～「香川県民の日」の創設「前」に、『You 「愛」ターン』プロジェクトを提言！～

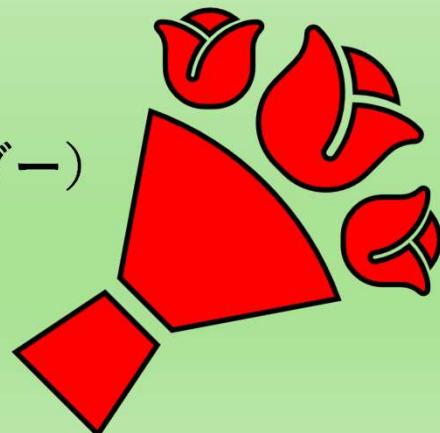


チーム名：ふるさと「アイ」

大手前高松高等学校 2年 山野 愛華（リーダー）

（高校卒業後1年目の「未来の」）山野 愛華

（就職した頃の「未来の」）山野 愛華



1-① 研究の背景～キーパーソンの「私」～

チーム名の「ふるさと「アイ」」は、「私(I)」が自分事として、「自分の目(eye)」でふるさとを調査し、その「アイディア」実現で、未来のあなた(You=私(I))が、きっと、ふるさとを「愛」し続けてくれる… 例え、県外にいても、ふるさとの仲間たちに「会い」に帰ってしてくれる…との願いを込めている！

・人口減少社会における、キーパーソンの私(I)【若い女子】が「地元を消滅させない」ために、私は研究しようと思い立った！

・2050年までに「若い女性」の人口が半数以下となる自治体を「消滅可能性自治体」としており、香川県でもさぬき市、東かがわ市、琴平町、土庄町の4つが該当している。(資料1)

・大手前高松中学・高等学校は、中高一貫校であり、成長する過程のなかで、どのような出来事が我々学生の地域に対する「気持ち」に影響を与えるかの調査・研究を行うことは、役に立つ！

・現在、香川県は、若者の県内定住等を目的に、「香川県民の日の創設」を検討中！そこで、創設される「前」に、キーパーソンの「私」が、アイディアを考え、香川県に提案したい！

日本一面積が狭い県、日本一のうどん県が、「若者の定着」という大きな問題に、コシの効いたねばり強い調査を行い、日本全国のモデルになるアイディアを誕生させる！

アイディア提言までの流れ（構成）



自治体の人口特性別9分類(自然減対策と社会減対策)

資料1

A 自立持続可能性自治体: 65

B ブラックホール型自治体: 25 (B-①:18, B-②:7)

C 消滅可能性自治体: 744 (C-①:176, C-②:545, C-③:23)

D その他の自治体: 895 (D-①:121, D-②:260, D-③:514)

封鎖人口 移動仮定	減少率20%未満	減少率20~50%未満	減少率50%以上
減少率20%未満	A 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要
減少率20~50% 未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率50%以上	C-① 社会減対策が極めて 必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

(注)縦軸および横軸の「減少率」は、若年女性人口(20~39歳)の減少率

人口戦略会議資料(令和6年地方自治体「持続可能性」分析レポート)

1-② 研究の背景～香川県では「香川県民の日の創設」が検討中～

- 香川県では2025年6月19日に知事が「香川県民の日」を創設する考えを示した！
- この日は県民の郷土への記憶や感情を呼び覚まし、人口減少対策にもつなげることを目的としており、今後、県民の意見を聞きながら日付や創設時期が検討される予定。

- 「県民の日」等を定めているのは14都県（静岡県HPより）

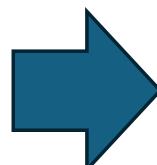
条令：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、福井県、山梨県、静岡県、三重県、和歌山県

その他：秋田県、愛媛県、大分県

- 「県民の日」には、どんな取り組みをおこなっているのか？（インターネットで調査）

- ・県内の多くの公共施設やレジャー施設が無料開放または割引料金で利用（三重県など）
- ・「県民の日 学校ホリデー」が創設。家族との時間が増えるように、学校が休校。（愛知県など）
- ・ふるさとの食や魅力を再発見するきっかけとなるイベント実施（鳥取県など）

調べているうちに...
疑問がでてきた！！！



これから県外に進学することを検討する学生や、既に県外にいる大学生等をターゲットにしたものが...ない？？？

1-③ 研究の背景 ~「香川県民の日の創設」前に、私がアイディアを創設!~

「香川県民の日」に実施するイベント等で想定されるターゲット層

- ①香川県に、現在、住んでいる子供たち（～高校1年あたり）
- ②香川県で、現在、住んでいて、働いている社会人たち（主に、20代～60代）
- ③香川県で、現在、住んでいて、仕事等をしていない人たち（主に、60代後半以上）
- ④香川県に住んでいるが、今後、進学や就職で県外などにでる可能性が高い人（高2、高3）
- ⑤香川県に住んでいたが、進学などで、県外に移住している人（大学生など）
- ⑥香川県に住んでいたが、就職などで、県外に移住している社会人（20代～50代）

他県のイベントなどの事例

- ・他県は、県民の日に、県内公共施設やレジャー施設が無料開放、学校ホリデー（休暇）、食や魅力の再発見イベントなどを行い、①～③が主なターゲット層と考える。（私たち④⑤は？）

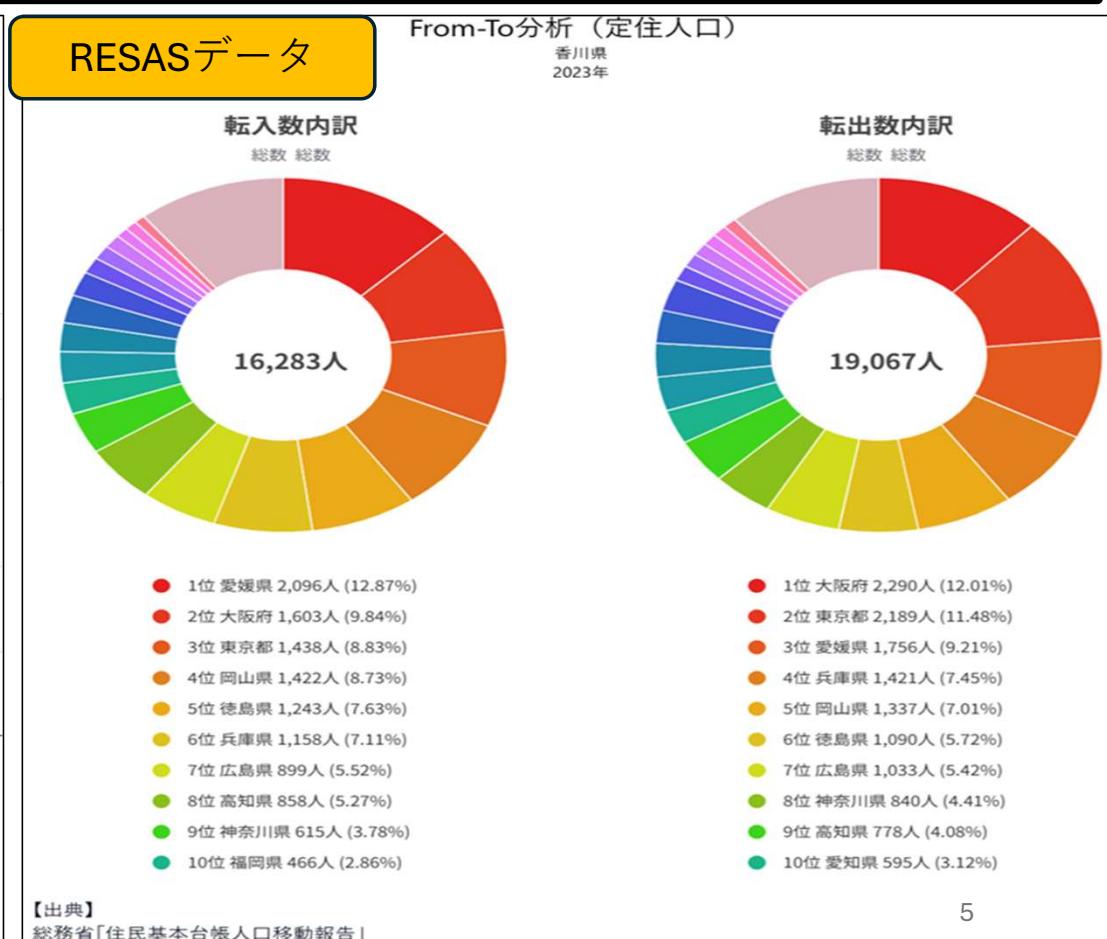
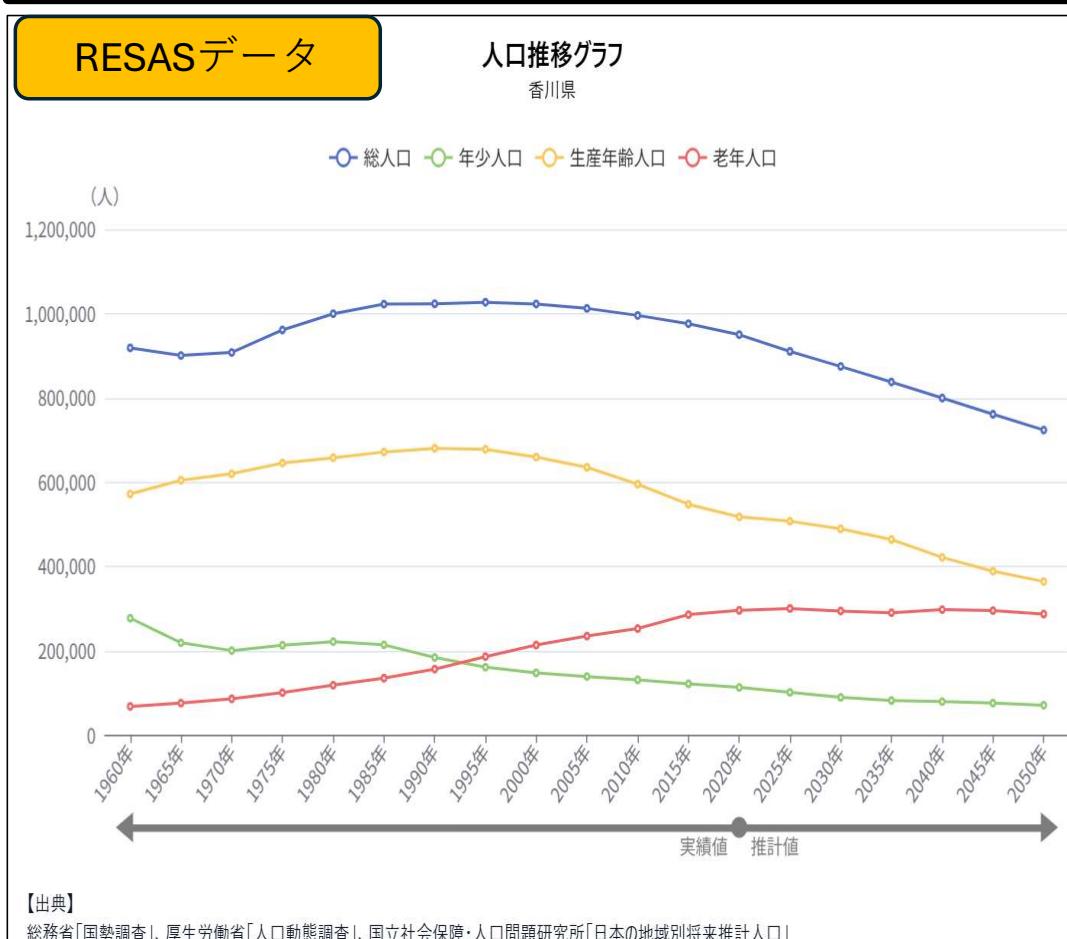
香川の「未来」を支える、キーパーソンの
私たち学生の意見を聞いてほしい！



そこで、現在高校生の私は、「香川県民の日」が創設される「前」に、
④⑤を主なターゲットにした、「若者定着」のアイディアを考えたい。

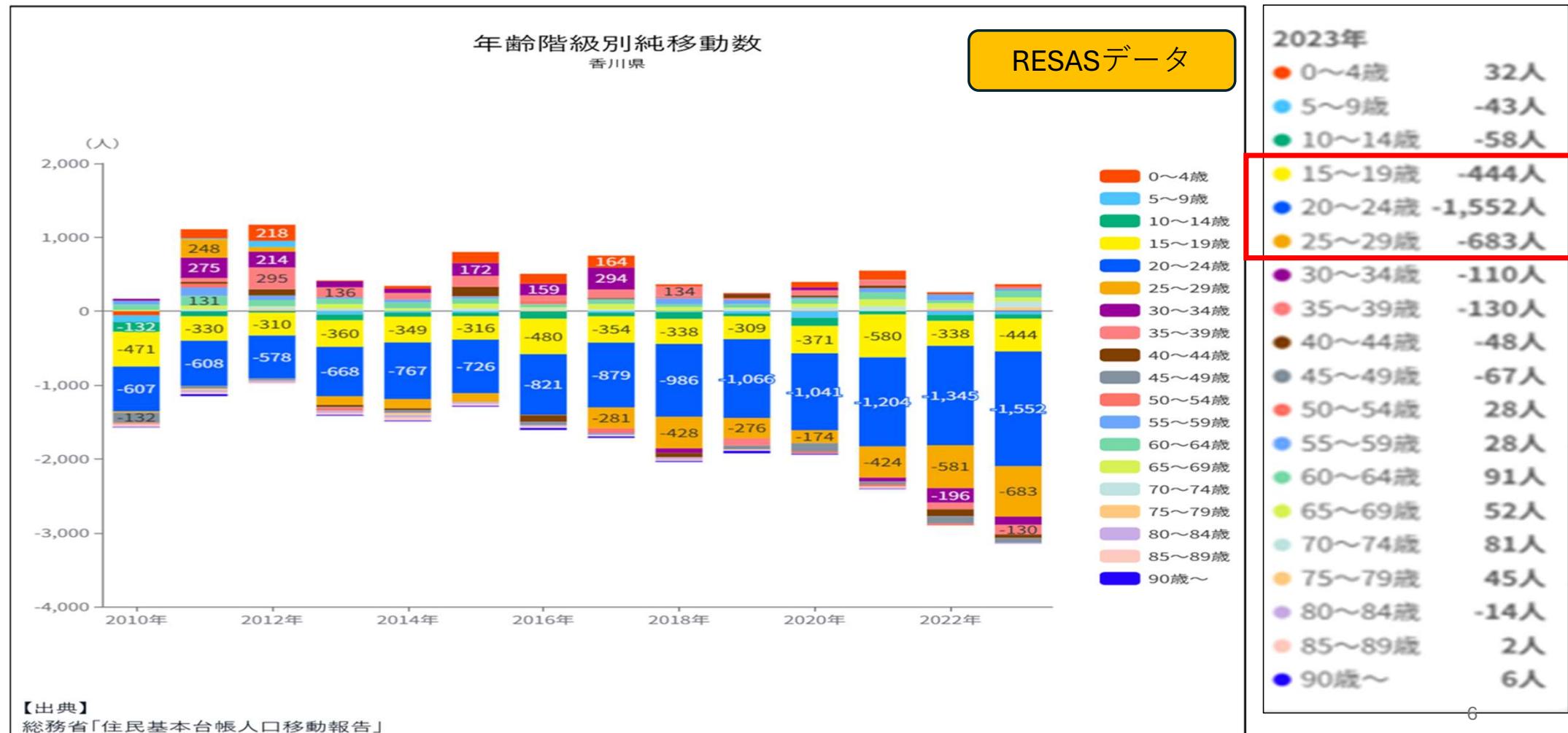
2-① 香川県の人口の状況（RESASデータ）

- ・香川県の人口は、1999年の約103万人をピークとして減少に転じ、進学や就職に伴う若者の大都市圏への流出に歯止めがからず、出生数も毎年減少を続けるなど、厳しい状況
- ・また、香川県の定住人口も転入者より転出者が多く、大阪、東京、兵庫などへの流出が多い。



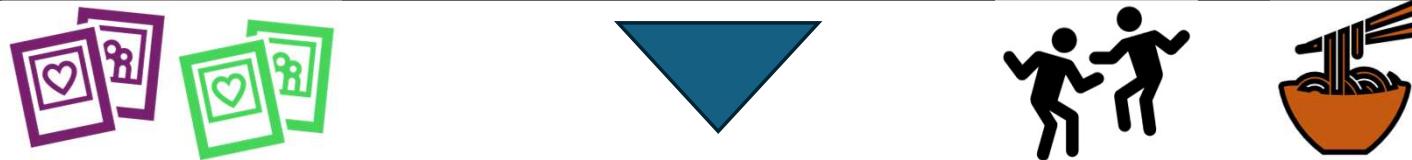
2-② 香川県の人口の状況（年齢階級別純移動数）（RESASデータ）

- 香川県の年齢階級別の純移動数では、県外へ転出している階級が最も多いのが「20～24歳」の層であり、次に「25～29歳」「15～19歳」となっており、**進学や就職**がきっかけで県外に転出していると考えられる。



3 地域課題解決に関する先行研究・資料等の活用について

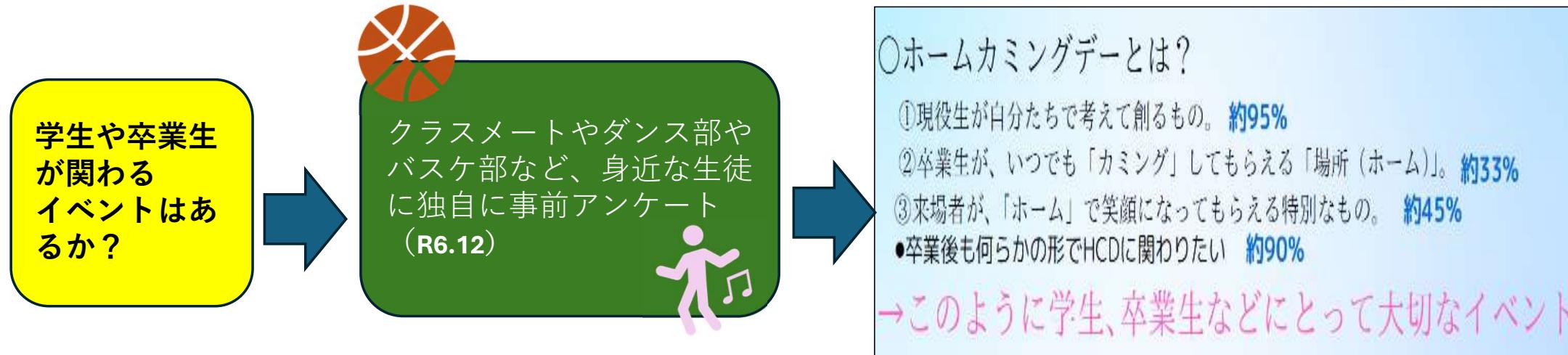
- ・高校生の香川県に対する意識調査(資料2)では、将来、香川県に住みたいと思う理由については、「地域に愛着がある」が29.3%と最も高い結果となっている。
- ・トラストバンク(資料3)の調査では、20~30代の8割弱が地元に好意的であり、地元の家族・友人の存在や、思い出が「地元愛」の要素となっている。また、地元に愛着を抱いている理由は、多い順に「家族がいるから」(65.6%)、「思い出があるから」(41.4%)、「住み慣れているから」(38.2%)、「友人がいるから」(34.4%)となっている。
- ・一方で、海野ら(資料4)は、地域愛着はUJターンの意思には直接関係しているが、UJターン行動にはその他の要因も関わってくること、また、思い入れのあるシンボルを各自持つことがUJターン意思・行動に繋がる可能性を示唆している。さらに、インフラ整備や店の有無よりも住民参加型の祭りなどのシンボルがUJターン意思・行動に影響することが明らかとしている。



- ・これらのことから、地域に愛着を持つと、大学進学などで県外に行ったとしても、将来戻ってくる可能性が高い。
- ・また、自分たちにとって帰る場所となる「シンボル」があり、学生時代に積極的に関わる学校イベントなどがあると、友人との思い出も深まり、地域愛着がさらに高まる可能性があると考えられる。

4 学生の地域愛着の「シンボル」となるホームカミングデー（学園祭）

- ・地域に愛着を持つと、大学進学などで県外に行ったとしても、将来戻ってくる可能性がある。
- ・そのためには、自分たちにとって帰る場所となる「シンボル」があり、それはモノでなく、参加型であり、学生時代に積極的に関わると、友人との思い出も深まり、地域愛着が高まる可能性がある。
- ・そこに、地元企業なども関わると、地域愛着がさらに高まる可能性がある。（P14「プロジェクトTOBE参照」）



- ・ホームカミングデーは、現役の学生のだけでなく、卒業生や、保護者にとっても大切なイベント
- ・「ホームカミングデーが、学生の地域愛着に大きな影響を与えるきっかけとなるイベントになるのではないか」と考え、R7.3に在学生（中学生・高校生）にアンケートを行った。

5-① 中高生に対してのアンケート調査

(回答者属性) (アンケート実施期間：令和7年3月11日～15日)

回答者数	201名(中1：22人、中2：23人、中3：24人、高1:81人、高2：51人)
------	--

性別	男性：91名 女性：109名 (未回答者1名)
----	-------------------------

- ・在学中の学生（中1～高2）に対して、文化祭についての意見や卒業後にどのように関わりたいかを中心に、独自にアンケートを実施（高校3年生は、アンケート実施時期に卒業しており、未実施）

(アンケート項目) ※ホームカミングデーは「HCD」と略称

- ・回答者属性（学年、性別等）、学校行事で印象深いもの、HCDに積極的に参加しているか、HCDに卒業生や地元企業が参加することはどう思うか、HCDに卒業後も参加したいか、HCDに卒業後も参加することで「地域愛着」高まるか、将来香川県に住みたいか等を質問項目として設定した。



- ・約77%の学生が学校行事で印象深いものとして、HCDを選んだ。
- ・さらに、約95%が、HCDに積極的に参加していると回答していることから、HCDを学校行事の代表的な「シンボル」とすることができると考えられる。
- ・また、約80%がHCDに卒業後も参加したいと回答があった。



やはり、HCDは、現役の学生にとっても、大切な学校イベントであり、卒業後も参加したい！

5-② 中高生に対してのアンケート調査

○「将来香川県に住みたいと思うか」については、「一度県外に出ても将来は香川県に戻って来たい」の約43%が一番多く、次に「分からない」の約29%が多かった（表1）

○ただし、男女別にすると、**女性は「一度県外にでても将来は香川県に戻って来たい」が約50%**と一番多く、男性は、「分からない」の約36%が一番多い。（表2）

自治体は、「地元に住み続ける」施策を推進するが...、私たちは「一度は県外に出てみたい」のだ！
でも「将来は戻って来たい」と思っている！ ⇒ この気持ちを大事にして、「帰ってくる」仕組みが重要！

表1

香川県で将来住みたいと思うか

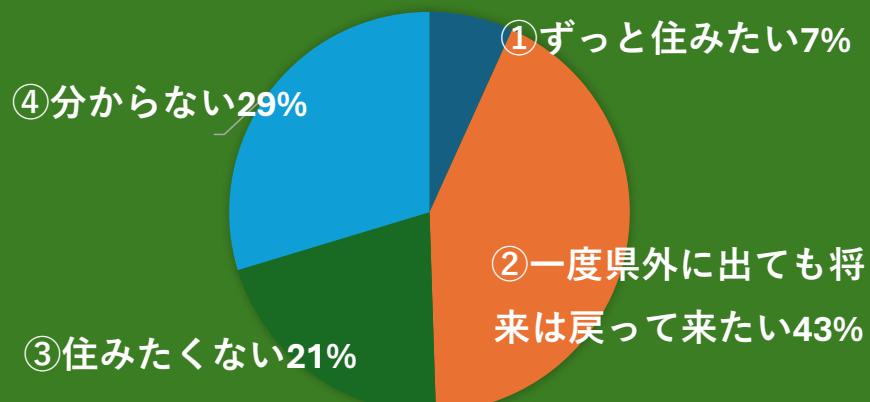
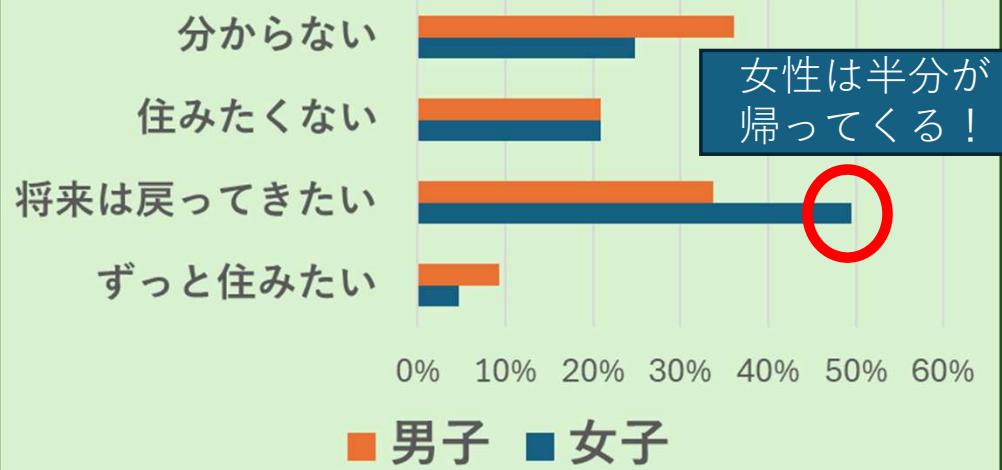


表2

将来香川県で住みたいか（男女）

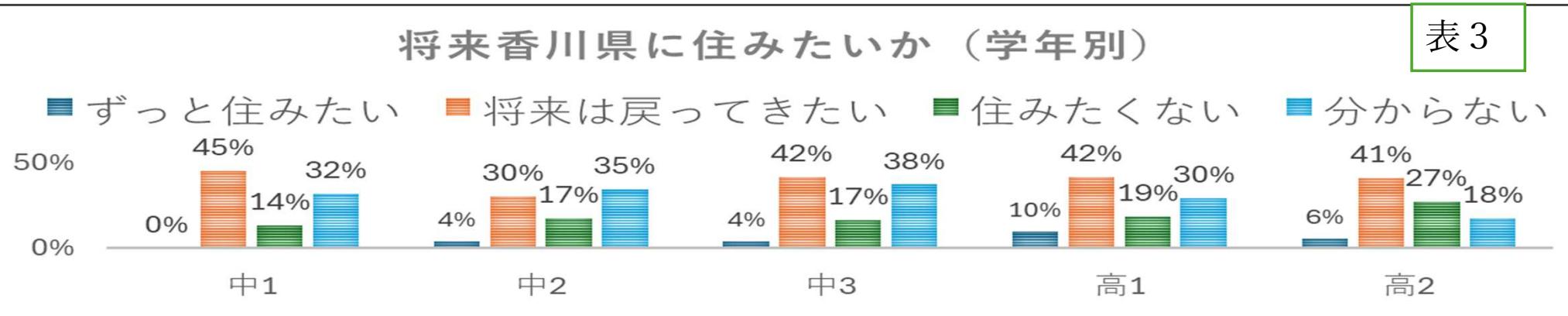


5-③ 中高生に対するアンケート調査

学年別にみると、「将来香川県に住みたいか」という質問について、「分からぬ」と回答する割合が、中学生は若干高い傾向がある。(表3)

将来香川県に住みたいか (学年別)

表3



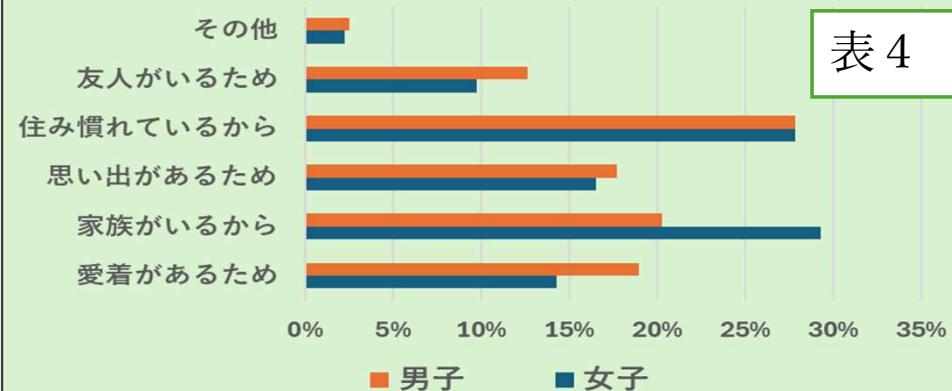
・香川県に「ずっと住み続けたい」「一度県外にでても将来は香川県に戻って来たい」と回答した理由は、男女ともに「住み慣れている」からが高い。(表4)

・男子は「友人がいるから」「愛着があるから」の理由が女子より高く、女子は「家族がいるから」が男子より高い傾向がある。(表4)

かわいい子には、旅（一度県外へ）をさせよ！
でも、「愛着」があれば帰ってくるのです！

住みたい・帰って来たい理由 (複数選択可)

表4

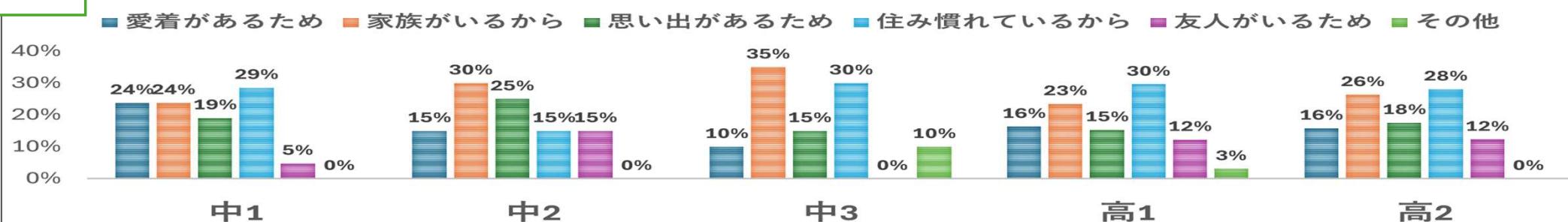


5-④ 中高生に対するアンケート調査

- 学年別にみても、「家族がいるから」「住み慣れているから」が高い（表5）。様々な要因はあるが、慣れ親しんでいる「場所」や「人」、「思い出」などがあると、**地元愛**が高まると考えらえる。

表5

ずっと住みたい・将来帰って来たい理由（複数選択可）



- 香川県に住みたくないと回答してた学生も、約70%が「卒業後はHCDに参加したい」と回答（表6）
- 約95%が「HCDに地元企業が参加すること」に対して面白いと回答している（表7）
- 今は香川県に**愛着**がなくても、地元に関わりたい、地元企業を知りたいという考えを持っている傾向がある

表6

卒業後はHCDに参加したいか

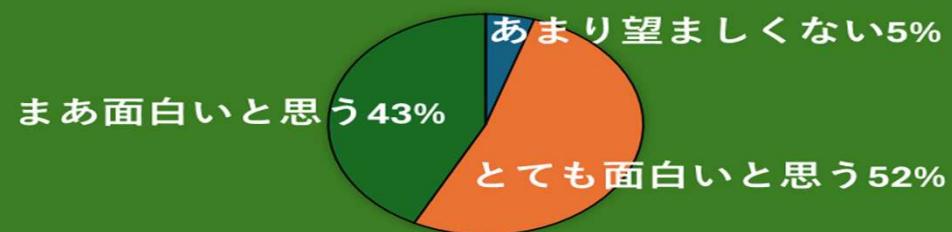
（将来香川県に住みたくないと回答した学生）



表7

HCDに地元企業が参加すること

（将来香川県に住みたくないと回答した学生）



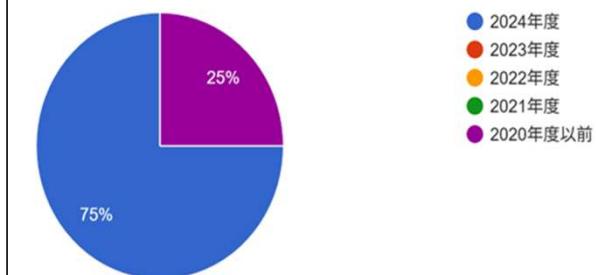
6 ホームカミングデーに参加した卒業生からのアンケート

- ・在学生のアンケートでは「地元愛」が高かったが、卒業生は、HCDに参加するのか？
- ・そこで、令和7年9月7日のHCDに参加した卒業生に、独自に声掛けアンケートを実施。(12名)

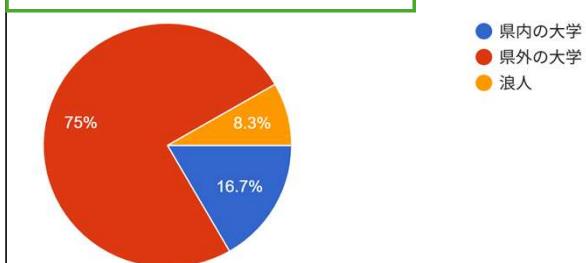
・昨年度に卒業した方が75%であり、2020年度以前の卒業生が25%（表8）

・参加者の進学先は、県外の大学が75%と多く、次に県内の大学であった。（表9）

（表8）卒業年度

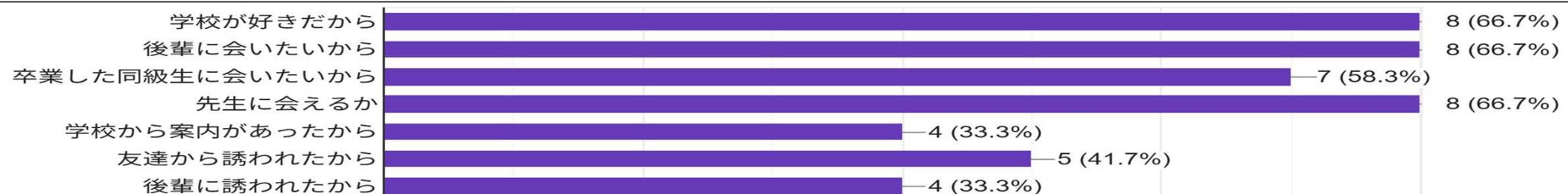


（表9）進学先



・HCDに参加した理由は、「学校が好きだから」、「後輩に会いたいから」、「先生に会えるから」との回答が多く、次に、「卒業した同級生に会えるから」などの回答が多い。（表10）

（表10）今年度のホームカミングデーに参加した理由はなんですか？（複数選択可）



- ・卒業後すぐの方は、学校イベントに参加しやすい傾向があり、県外に進学しても参加すると考える。
- ・学校イベントには、学校で出会った友人や先生、後輩に会えるという動機で、参加する。

7 地域課題を地元企業等と共に考える「プロジェクトToBe」（学校での経験）

○本校は、中3・高1総合探究の時間において、地元企業や自治体と、課題解決を行う約4ヶ月の集中型のオリジナルの探究学習・キャリア教育プログラムがある。

○私たち学生は、企業の抱える課題を解決するためのアイデア提案し、企業からは、学生の提案に着想を得て、さらにアイデアを進化させて生徒たちに返してもらう探求プログラムである。

○「地元企業」と関わることは、我々学生の「**地域愛着**」の醸成に大きく関係し、将来、香川県に住みたいと考える動機になると、実際の授業を受けた私自身も感じており、地域課題解決に、多くの地域関係者を巻き込むのは重要である。



○さらに、授業で興味を持った地元企業に、後日、インターンシップで參加した。

○その時に、従業員の方と話した際に、「授業だけでなく、もっと、学生と交流して、地元の良さや会社のことを知ってもらいたい」とのことであった。

学生も、地元企業も、もっとお互いのことを知りたい！
地元を**愛**する、きっかけや機会が、もっと欲しい！

8 卒業生の「地元愛」を高め、将来帰ってきてもらう仕組み【仮説設定】

○これまでの先行研究・資料や、本校の中高生アンケート、卒業生のアンケート、地元企業との交流などから、以下のとおり仮説を設定し、プロジェクト案の方向性を考えてみた。

- ① 「地元愛」が高まると、将来、香川県に住む可能性が高まる。
- ② 「地元愛」を高めるために、「学校行事(HCD)」は効果的な「シンボル」となる可能性がある。
- ③ 「学校行事(HCD)」は、在学中だけでなく、卒業後も積極的に関わると、「地元愛」は高まる可能性がある。
- ④ 「学校行事(HCD)」に、地元企業なども関わると、「地元愛」はさらに高まる。

仮説

卒業生の「地元愛」を高め、将来帰ってきてもらう仕組みとして、「香川県民の日」を起点とした『You「愛」ターン』プロジェクトを企画

まずは、「現役学生」が、一番最初に、力強く、動く！

次に、関係者を、どんどん「巻き込み」「動かす！」

そして、プロジェクトが「動きだし」「回りだす！」

学生「発」&「原動力」だから「産」「官」「学」を動かせることもある！学生だから動くプロジェクトもある！



9-① 『You 「愛」 ターン』 プロジェクト(案)

香川県民の日の週に、H(ふるさと)C(カミング)W(ウィーク)を設定

「香川県民の日」が創設される日の週を、H(ふるさと) C(カミング) W(ウィーク)に設定。
現役高校生、卒業生を主なターゲットに、下記のイベントを行う。(まずは、本校から!)

①SHCD (スーパーホームカミングデー)

・現在のHCDをさらにパワーアップ! 「学校愛」をきっかけに、多くの卒業生が帰ってくる!

②AHCD (アフターホームカミングデー)

・学校イベント終了後に、同窓会を実施して、さらなる「地域愛」を醸成させる。

イベント実施の関係者の役割イメージ

現役高校生

学校

企業等

自治体

卒業生

①②の企画・運営「卒業した先輩のおもてなし」をすることで、自分も卒業後に参加しようと思う。

卒業生へ案内周知。
主に①で、卒業生が集まりやすいブースなどを学校内に準備する。

①②の経費等を支援する。
支援した企業等は、①②にて自社PRができる特典

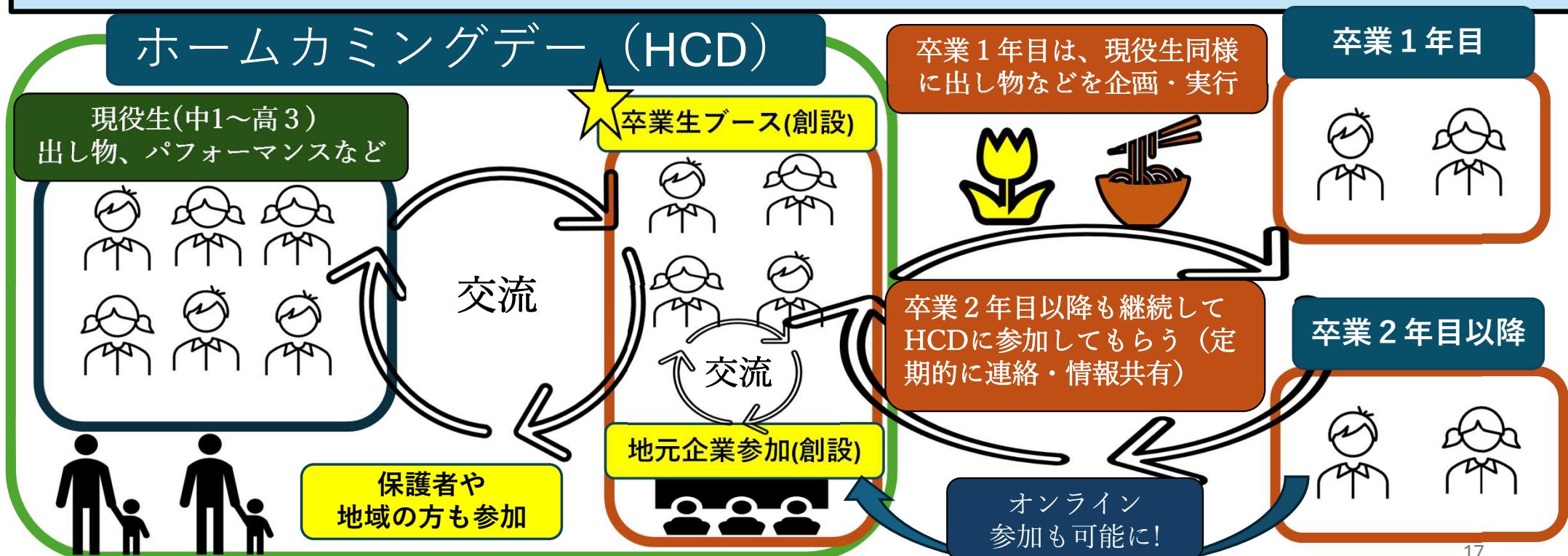
②のため県内の施設等を無料開放
・県外卒業生の帰省費用支援
・県内進学者には商品提供

卒業生が参加することが当たり前の雰囲気にする。
そこで、卒業1年目は①②の企画に関わるようにする。
→卒業直後の学生は「自分たちは参加が必須の仕組み」にしておく。

まずは、「現役学生」が行動を起こす! ⇒ 次に、学校で場所の確保 ⇒ 次に、「産」と「官」を巻き込む!

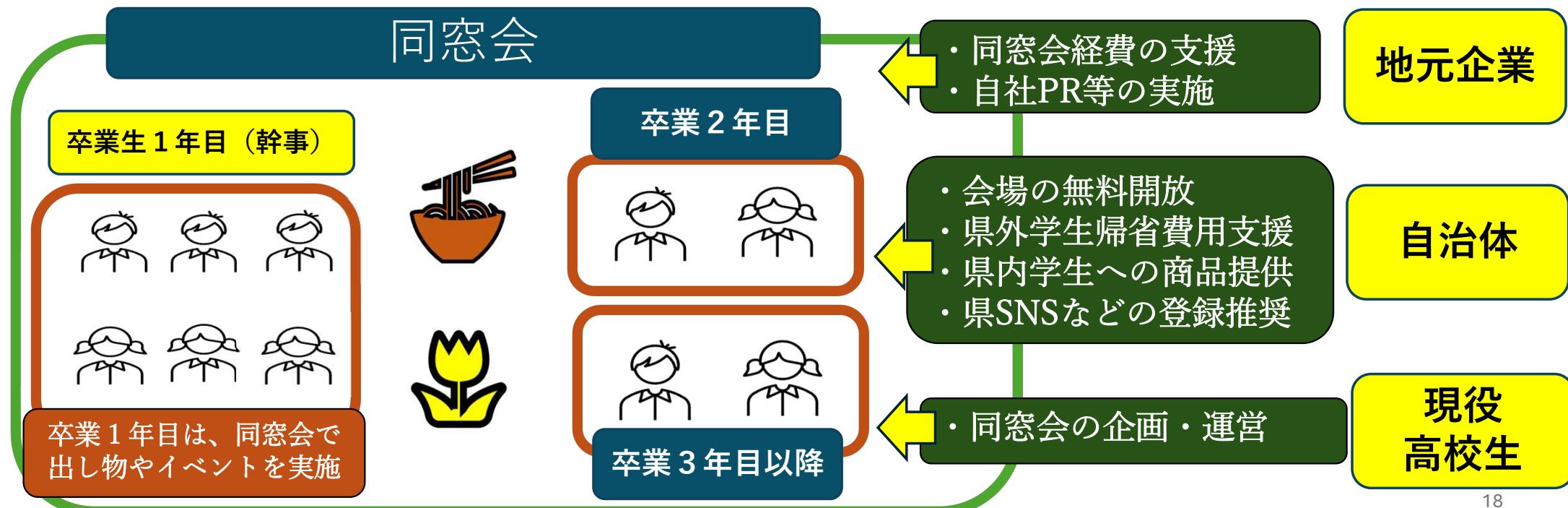
9-②『You「愛」ターン』プロジェクト(案) ~①SHCD (スーパーホームカミングデー) ~

- ①将来卒業生する「あなた(未来の私)」が、「地元愛」により、帰ってくる仕組みづくりを、今の私が作る!
- ②卒業後に、HCDに参加することが「当たり前」にするため、利便性の高い「卒業生ブース」を常設する。
- ③現役学生と学校は、HCDに卒業生が集まれる広めの場所(体育館等)を準備しておく。(オンライン参加も!)
- ④卒業1年目の学生※は、「卒業生ブース」で出し物などを行うため、企画し、当日までに準備、実行する。
※高3時に、各クラスで「卒業後のHCD幹事」を1名選出し、その幹事が、卒業生と学校の連絡役となる。
- ⑤「卒業生ブース」において、地元企業なども卒業生とコミュニケーションを図ることができるようとする。
→「香川県民の日」の日付は未定。香川県は、学校イベントや学生が参加しやすい日を検討していただきたい…



9-③『You「愛」ターン』プロジェクト(案) ~②AHCD (アフターホームカミングデー) ~

- ①学校イベント (HCD) に参加するために、県内外から集まった卒業生が、そのまま解散するのはもったいない。
 - ②そこで、学校イベント終了後に、「同窓会」を、**現役高校生**が企画・運営する。
 - ③同窓会の場所は、**自治体**などから、無料開放された施設を利用したい。（交通の利便性が良い場所など）
 - ④同窓会に参加した学生には、特典もある！（県外学生は帰省費用の支援、県内学生は「商品」のプレゼント）
 - ⑤**卒業1年目の**学生は、「同窓会」の幹事として、参加してもらう。
- ※高3時に、各クラスで「(卒業後の)同窓会幹事」を1名選出し、その幹事が、卒業生と学校の連絡役となる。
- ⑥「同窓会」において、**地元企業**なども卒業生とコミュニケーションを図ることができるようとする。
 - ⑦参加学生に香川県関連のSNS登録(Uターン、企業情報、ふるさと納税など)の推奨（登録者にプレゼント有）



9-④ 『You 「愛」 ターン』 プロジェクトの関係者のメリット

卒業生

- ・若者が帰ってこない原因に、「地元企業」のことを深く知らないこともある。一方で、学生は、企業などが開催する「就職説明会」などに参加することは、心理的なハードルも高いと考えられる。
- ・その点、「卒業生ブース」や「同窓会」は、慣れ親しんだ学校や卒業した同級生との交流ができる場のため、参加しやすい雰囲気であり、その場で、一緒に、地元企業などの情報を知ることができる。
- ・地元に帰ってくる「いいわけ（理由）」と「場所」があると、私たち若者は、参加しやすい！？

県内企業等

- ・企業は人材確保のための1件あたりの平均コストは約97万円（資料5）程度かかる。「卒業ブース」や「同窓会」会場で、地元出身者に対する、自社PRブースやグッズ配布は費用対効果が高いのでは？

学校

- ・学校イベントに対する、自治体や地元企業からの費用面等の支援が期待できる。知名度もUP！
- ・地元企業と協力する関係が構築され、学校の授業等での、さらなる連携も図ることが期待できる。

自治体

- ・「現役の学生」が「自分事」として、未来の自分たちが県内に戻ってくるための方法を考えてくれるため、若者の県内定着の効果が期待できる。現役学生や卒業生の「本音」を聞けるチャンス！

現役高校生

- ・自治体や地元企業と、現役学生の時から関わることで、「今の自分達の気持ち」と「将来、こうなっていたら香川県に帰ってきやすい」という想いを、今から、関係者に伝えることができる。

今後の展望

- 本校は中高一貫校であることから、中学生から高校生の成長する過程の中で、どのような出来事が我々学生の地域に対する「気持ち」に影響を与えるのか、継続して調査することが可能と考えている。
- 地域の関係者などにも多く参加してもらい、在学生や卒業生の「地元愛」の醸成のきっかけになつてもらいたい。地域の関係者にとっても、学生と触れ合うことで、地域活性化のヒントとなつてもらえばと思う。
- この全国的な人口減少問題について、本学において独自のノウハウと情報を蓄積し続け、「現役の高校生が継続して研究し続ける」学校として、全国でも同じ課題を抱えている自治体のモデル高校となつてもらいたい。

参考資料等

(資料1) 人口戦略会議：令和6年地方自治体「持続可能性」分析レポート令和6年4月24日

(資料2) 香川県：高校生の香川県に対する意識調査報告書 令和5年6月

(資料3) トラストバンク：地元愛に関する意識調査、

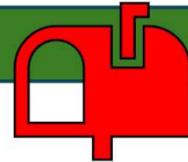
<https://www.trustbank.co.jp/newsroom/newsrelease/press602/>, 最終閲覧2025.8

(資料4) 海野遙香, 増本太郎, 寺部慎太郎, 柳沼秀樹, & 田中皓介. (2022). 若年層に着目した地域愛着・街のシンボルへの意識とUJターン行動の関連性. 都市計画論文集, 57(3), 1180-1185.

(資料5) 厚生労働省 採用における人材サービスの利用に関するアンケート調査 調査結果（令和4年）



11 未来のあなた（私）へ、現在高校生の私からのメッセージ



高校卒業後1年目の「未来の」私へ



- 未来（高校卒業後）のあなたが、学校に集まりやすいように、今の私が、きっと、「卒業生バス」や「同窓会」を創っておくので、卒業生のみんなや、地域の関係者、先生・後輩たちと交流して、地元を「愛」し続けてほしい。
- 卒業後1年目のあなたは、「幹事」なので、忘れないように！
- 香川県民の日には、卒業生の皆さんと、HCDや同窓会で再開し、「ふるさと」を楽しんでほしい。

就職した頃の「未来の」私へ



- 就職する頃のあなたは、今、どこにいますか？
県外に進学して、そのままかな？ 県内にいたけど、県外に就職したかな？
- もし、県外にいるなら、地元を「愛」して、ターンする（帰ってくる）ことを願っている。
- これまでの「私」と、今の「私」を育ててくれた、大好きな「地元」を、より明るく楽しいものとなるように、未来のあなた（私）が、「地域の人々」と、共に創り上げてほしい。
- ふるさとが、これからも、みんなに「愛」され、「笑顔」の「花」で「華やか」に満開であるように！

未来のあなたへ、今の私「I」から、「愛」をこめて

